笑う門には福来たる

㈱日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911

開館11周年記念特別展
一遍さんと真民さん
7月2日まで
坂村真民記念館（砥部町）

明朗・愛和・喜働

暦に親しむ

五月の旧暦の名称は「皐月」といいます。早苗を植える月「早苗月」の略と言われ、「皐」の字には「神に捧げる稲」の意味もあります。

日本では明治五年まで「太陰太陽暦(旧暦)」を使っていました。現在の暦とは約ひと月ずれています。その名残が随所に見られます。

例えば「五月晴」の本来の意味は「梅雨の合間の晴れ間」をいいます。これは旧暦の五月が梅雨の時期だからです。今ではその意味が広がり「五月のさわやかな晴れ間」を指す言葉としても使われています。

かつて「暦」は、適切な時期に農作業を行なうために大変重要でした。自然は時に洪水や干ばつなどを引き起こします。先人たちは自然に対し畏敬の念を持ち、周期を記録し後世に伝えていったのです。

今でも「立春」「立夏」などで季節の移り変わりを知らせ、衣更えや田植え期、収穫期などを知らせてくれます。

「暦」に親しみを持ち、先人たちの知恵に学びましょう。

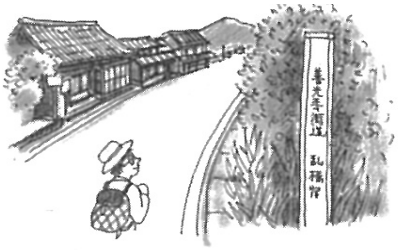
◆暦の中の言葉の意味を調べてみましょう

「職場の教養」より

日本再発見！

善光寺西街道（長野県）

「遠くとも一度は参れ善光寺」とうたわれた名刹、善光寺。遠くから参る者が多ければ、そこに道ができる。正式には北国西脇往還といい、長野県塩尻市の洗馬宿から北上し、松本城下を経て山間地を過ぎ、善光寺へ至るルートだ。江戸時代の人々の間では西国札所をまわり、中山道を使って帰路につき、洗馬宿からこの道に入って善光寺を詣でた後江戸に戻るというのがお決まりのコースだったという。実際に、「続膝栗毛」でもこのコースがとられている。



保親さんの人生万感

千年の命をつなぐ楠若葉
人は短かき命を燃やす

過疎すすむ村に今年も燕来て
納屋に五つの卵を抱きて

体は心を映す

心の状態は、表情や姿勢に現れる。不調を感じたら
心が後ろ向きではないかチェックし、いつも明朗を目指したい。